

体育会系クラブに入部して「体育会力」を身につけよう

ー 『体育会学生が就職に有利な理由』証言集ー

OCUSA（体育会系クラブ OB 会連合）常任理事
柴田 洋（昭和 57 年商学部卒・ソフトボール部 OB）

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

さて、これまで「体育会出身の学生は就職に有利だ」と言われ続けてきました。今回、OCUSA では、この通説を立証すべく、日本だけでなく世界で活躍する市大 OB8 名から貴重な証言を入手しました。

証言では、体育会でのスポーツを通じて、忍耐力に加え、人間力、リーダーシップ、コミュニケーション能力、健康な肉体そして精神力・向上心、組織運営能力、先輩や後輩の人脈などを身に付けることができ、それが就職に有利に作用していることが分かりました。これを「体育会力」と呼びます。

さらに判明したことは、就職だけでなく、人生において重要な人間力、さらに将来 TOP や役員に上り詰める、また独立して会社を創業し社長として活躍する際の大きな源になっていることも解りました。

この 8 人の証言集を必ず読んでいただき、是非とも体育会クラブに加入して、一回限りの人生を有意義に生きるための「体育会力」を獲得してください。

さらに、有力企業に就職するだけでなく、一流公務員、経営者、プロフェッショナルとして、日本そして世界で活躍する後輩諸君の将来に乾杯したいと思います。

【証言 1】

前所属) 株式会社みずほ銀行 (旧第一勧業銀行)

現所属) モロゾフ株式会社 常務取締役

山岡 祥記 (昭和 55 年商学部卒・ヨット部 OB)

私は大学卒業以来、銀行の人事部や一般企業の役員として採用に携わってきました。時代が変わり、採用方法も変化してきましたが、優秀な学生を短い期間で見極めることは不変であり重要であるとともに、極めて難しいことであるとも言えます。やはり体育会に所属していた学生は、当たり外れが少なく、入社後も活躍してくれることが多いため、選抜に当たっての重要な判断のポイントと考えています。私の経験や考えについて記載させて

いただきます。

1. 企業が求める人物像

当然のことですが、銀行には東大、京大などの国公立大学から早稲田、慶応などの有名私立大学まで、優秀な人材が集まってきます。しかし、日本でもトップの大学を出た、頭脳明晰な人材が、必ずしも企業の中で活躍できるとは限りません。正直言うと、大学で勉強してきたことがそのまま企業で活用出来ることはそれ程多くはありません。それ故に、社会に出てからも問題意識を継続して持ち、勉強を続けていけるか、モチベーションを維持出来るかが重要なのです。

企業で活躍する人物には共通項があります。常に問題意識と向上心を持ち、恒常的に自己を奮い立たせながら、努力を続けていける人です。そのためには、強い精神力と体力が必要です。また、他者との意思疎通の力、相手の話を良く聞いて、理解し、そして相手に自分の考えを伝える、というコミュニケーション能力も重要です。判断し、それを実行する意思の強さも重要です。

私は、銀行時代に新入社員の採用面接だけでなく多くの銀行員の人事評価面接も行いましたが、その中で重視したのは、このような要素を持っているかどうかでありました。

2. 体育会所属学生を企業が望む理由

最近の新入社員の傾向を見ていると、頭は良いのですが、ストレス耐性が弱い、対人折衝力に欠ける人が多くなっているような気がします。船場法人部長の時も、配属されてきた新入社員が3ヶ月でうつ病になって休んでしまったこともありました。

誰しも失敗することや、苦しい時があります。逃げたい、会社を辞めたいと思う時があります。その時に、その壁を乗り越えられるかどうかは、学生時代を含めて、その人がどれほど苦しい場面を乗り越えて来たかに掛かるような気がします。

採用面接でもその点を色々な質問を通して見極めるようにしていますが、最近面接練習をして来る学生が多く、また少し強く面接をすると「圧迫面接を受けた」と悪い評判が立ってしまうリスクもあることから、短い時間で見極めることは難しくなっているのが現実です。

そのような状況の中で、やはり体育会としての活動を4年間続けてきた学生は、長期間に亘り厳しい練習に耐えて来たこと、先輩やOBとの人間関係を経験してきたこと、下級生を纏め、部を維持することに苦勞してきたこと、など企業が求める人材の要素を備えている可能性が極めて高いと言えます。

最近同好会やサークル活動を好きな仲間とやりながら、アルバイトも適度にやって、成績もまずまず良好で、という学生が非常に多いです。しかしその内容を聞くと、「好きなことを、好きな時に、好きなメンバーで集まって」ということに止まっています。体育会で行なっている「何とか競技で勝ちたい、組織を強くしたい」という活動とは少しレベルが異なっているように感じます。

結論としては「やはり体育会所属学生を採用すれば、良い人材を獲得出来る可能性が高い」ということです。出来ることなら体育会所属学生を採用したいというのが本音です。

3. 最後に

体育会所属の学生には、「体育会活動をやりながら、甘えずに勉強もしっかりとやる」ことを望みたいです。就職活動には、4年間の体育会での活動経験に自信を持って臨んで欲しい、ということもアドバイスしたいと思います。また、大学に対しては、知識を詰め込むだけでなく、体育会の活動に今以上にご理解をいただき、「自分で考え、行動でき、組織の統率力も備え、精神的にもタフ」という素質を少しでも多く備えた卒業生を育てて、社会に送り込んでいただけたら有難いと考えています。

【証言2】

㈱ベクトル 代表取締役

ト部 憲 (昭和55年工学部卒・剣道部OB)

㈱ベクトルは、2003年6月設立の人事コンサルティングを核とした、組織人事のトータルソリューションサービスの会社です。具体的には企業の人事戦略の構築、人事制度の設計、教育研修、採用業務の代行、給与計算の代行、人材紹介・人材派遣など、組織人事に関する多角的なサービスを行っております。私は、昭和55年4月に㈱ダイエーに入社し、その後22年間一貫して人事畑を歩み、人事企画部長、労政部長、人事部長を歴任しダイエー本体及びグループ会社200社の採用計画、人事異動、役員人事、雇用調整などに携わってきました。その経験を生かし㈱ベクトルを設立致しました。

人事コンサルタントとして体育会学生が就職に有利な理由

実際に企業のコンサルティングを行っている中で、顧客企業（一部上場企業）から有名大学や体育会系の学生の優先順位は高く、採用後の成長性も高いと聞いておりますが、それらを論理的に解説すると以下ようになります。

企業が新卒採用で求める人材像は一部の専門職を除き多くの場合、「将来の経営幹部としての資質」があるかどうかです。「将来の経営幹部の資質」とは「考える力＝課題形成力」「ミッションを遂行する力＝課題遂行力」「人を使う力＝人材活用力」「コミュニケーション能力＝折衝交渉力」、そして「仕事に対する情熱や姿勢」の5つです。これは大半の企業の人事考課（評価）のベースになっている要素です。

新卒採用においては、出身大学のレベルや適性検査・基礎学力試験により篩いをかけ、その後に集団討論などを行いますが、これらのアセスメントでは「考える力＝課題形成力」と「コミュニケーション能力＝折衝交渉力」といった一部の能力しか観察することができません。「ミッションを遂行する力＝課題遂行力」、「人を使う力＝人材活用力」、「仕事に対す

る情熱や姿勢」については、面接などの印象に頼らざるを得ないのです。

そこで、企業が重視するのは学生生活で何をしてきたか、課題に直面した時にどのようなプロセスを踏んだかを面接で深掘して判断します。特に体育会系学生の場合、地域大会や全日本選手権での成績など明確な実績があり、「ミッションを遂行する力=課題遂行力」を有すると判断され有利に働くものと考えます。また、厳しい競争環境で勝ち抜くには「情熱や競争心、バイタリティ」が必要であり、入社後の競争環境においても優位性を持つと判断されます。特に体育会で主将などをしている場合には、統率力=「人を使う力=人材活用力」といった部分で評価されると思われます。

その意味において大学での体育会活動は、優秀な社会人を輩出する上で非常に重要な役割を担っているものと考えております。

【証言 3】

Hong Kong Navigator Consultants Limited 代表

森實 章（昭和 55 年法学部卒・ソフトボール部創設メンバー）

私は、大学卒業後はグローバルな仕事がしたいと思い、商社に入社しました。新たなビジネスを生む商社の仕事は、ソフトボール同好会創設で培った経験や人間力が活かされる場となりました。さらなる成長を求め、より規模の大きな総合商社に転職し、1995年に念願の香港現地法人に出向し、スケールの大きな取引を数多く行い充実した日々を過ごしていました。商社の業務は、体力と知恵の勝負です。組織をつくる力、組織を動かす力、そして時には壊すことも必要となります。現状を否定し、勇気をもって果敢に挑戦していくマインドを持っている学生は体育会系クラブに属している場合がほとんどです。このような学生を企業が採用したいと思うのは無理ありません。

2000年の会社の再編をきっかけに、香港で築いた人脈や在任中に覚えた北京語を活かそうと2000年5月に会社を退職して独立し、香港ナビゲーターコンサル社を創業しました。現在は、香港に進出してこられる日系企業に対して、会社設立、貿易業務、会計業務をはじめ、各種コンサルティングを行っております。学生時代から社会人になっても、常に新しいものを生む、無いなら作ればいい、の精神で自ら起こしてきました。そこには様々な障害や試練が訪れますが、失敗を恐れず果敢にチャレンジし続けています。目標を成し遂げるには強い精神力、体力、人間力が重要となりますが、これらを学生時代に培えるもつとも優れた場所が体育会に他ならないと思います。

体育会学生が就職に有利な理由

体育会クラブに所属することで、社会人生活において重要な4つの力を体得することができます。

①肉体的苦痛を乗り越えたものにはかないタフネス：最後にものをいうのはスポーツを通

じて鍛えられた体力と精神力です。同じ人間なのに負けて悔しいと思う気持ちが、エネルギーの源となります。そのエネルギーを力に変えるのが行動力です。体力がなければ行動はできません。

②体育会は人間力を向上させる場：体育会系クラブは社会に出て欠かすことのできない規律性や協調性を養うことのできる場といえます。パートナーとなるメンバーのことを良く理解しておかないと相手と戦えません。社会に出ても同様に、結果を出すためにはリーダーシップはリーダーだけが握っているものではなく、構成員自らが、ポジティブにリーダーシップを取ることが求められます。

③すぐやる、必ずやる、できるまでやるという習慣を身につける：体育会系クラブは、ベーシックな体力と技術力を身につけないことには、対外試合すらできません。体育会系クラブに入部した新生は、それらの力を一日でも早く身につけることが求められます。社会人になっても同じです。どのような環境におかれようとも、学生時代に身につけた『すぐやる、必ずやる、できるまでやる』という行動パターンにより、転勤や人事異動にも臆せず適用力を発揮できます。

④自立心を育てる：体育会系クラブでは、ほとんどの部員が責任のある役割を担うこととなります。『野球は9人でやるのではなく、ひとりひとりできる人間が9人協力し合っこそ、チームワークができる』ということです。社会に出ても、できる人間が多く集まってこそ、立派な業績を残せる会社になれるのです。

最後になりましたが、在学生の皆さんが体育会系クラブに所属し、充実した学生生活を送られるよう、遠く離れた香港よりエールを送ります。是非体育会での経験を活かし、人生を実り豊かなものとしてください。

【証言4】

外資系医療機器・人事総務本部長

泉谷 昌彦（昭和56年商学部卒・水泳部OB）

水泳部の先輩の勧誘もあり、大阪本社の製薬会社に入社以来ずっと人事畑を歩んでいます。工場人事に始まり、本社人事、研究所人事、米国駐在（シカゴ）、欧州駐在（ミュンヘン）そして、今の外資系と、その時々で支えてくださった方々のおかげで、幅広く経験させて頂きました。

体育会学生が就職に有利な理由

小生の33年間、グローバル人事に従事してきた経験で申し上げさせていただくならば、トップ20%の人材というのは、国、地域、言語、文化等に関わらず、どこでも通用するという点です。例えば一つのポジションに5カ国の国籍の人の応募があり、それをドイツ人と米国人の上司とともに私が面接したとしましょう。トップ20%の候補者というのは、面

接者の母国語、文化、職歴、バックグラウンドに関わらず、高評価を勝ち取ります。トップ 20%の人材に共通するのは EQ(Emotional Intelligence Quotient = 心の知能指数)が高い事です。

EQ は大学の講義ではアップしません。アルバイトは一定の社会人経験をもたらしてくれますが、多くの場合労務の提供と報酬の受領の関係で終わっており、これで得られるものは極めて限定的です。これに対し、大学の体育会運動部では、一つの団体としての目標（例えばインカレ2部昇格とか）及び個人の目標を達成する為にはどうすればよいか、部員、特に上級生は悩み、議論し、OB に相談したり、時には OB 連中との葛藤にも直面します。言わば、社会人になって所属する組織で起こりえる問題を若い時に疑似体験する場があるという事です。

大阪市立大学の体育会は、スポーツ推薦組で構成される私立大学に比べて運動部の成績自体は劣るかもしれませんが、歴史があるクラブが多く、OB 会もしっかりしており、講義では得られない EQ をアップさせる格好の場と言えます。こういった事から、昔も今も、体育会出身、特に主将・主務というのは、就職戦線では格段に有利に遇されているのだと思います。但し、上述したクラブの様々の運営問題に真摯に向き合う事のない、ナンチャッテ体育会もあるかもしれません。この辺りは採用面接時に丸裸にされる事になります。

【証言 5】

㈱LIXIL 人事総務本部 営業人事総務部 GL

佐野 清志（昭和 57 年商学部卒・合気道部 OB）

私の勤務しております㈱LIXIL は、2011 年にトステム・INAX・新日軽・サンウエーブ工業・東洋エクステリアの 5 社が統合してできた会社です。証券市場においては、持ち株会社の LIXIL グループで、一部上場しており、グループの全体の売上高は、1 兆 6000 億円以上であり、5 万人以上います。また直近では、グローバル化を急速にすすめており、世界的なカーテンウオールメーカーのペルマスティリーザの他、水まわりメーカーのグローエ・アメリカンスタンダードなど他、海外の企業が M&A でグループ入りし、海外市場への取り組みを強化しています。LIXIL では、従業員の多くが英会話習得に励んでおり、私自身も英会話学校に通っています。

体育会学生が就職に有利な理由

社会に出て感じることは、ミッションを遂行する能力が求められています。やはり、知識のみではなく、気力・体力・コミュニケーション能力が大いに必要となります。また、まわりを巻き込む力がおおいに求められます。体育会で培う、あくなき向上心・体力・チームとしての仲間意識・連帯感・協働等は、真の意味で大きく活かれます。

現在、私は、LIXIL ジャパンカンパニーという国内営業部門の社内カンパニーで人事総

務を担当しており、特に営業子会社数十社の人事総務の責任者をしています。営業子会社の人事総務部門の管理を行い、また、会社再編、新設、売却、解散等も合わせて行っています。やはりそのときに体育会で培った、前出した力が必要となり、活かしています。

人事総務責任者を 27 年近く行っておりますが、本年も、2015 年度の新卒採用面接を行いました。大阪市立大学の学生も多数面談しました。母校の出身学生の能力は、適性検査においても秀でており、私の学生時とは大きく異なり、圧倒的に優秀だと、個人的にも感心しています。また、学業に偏ることなくコミュニケーション能力にも大いに秀でていると実感しました。LIXIL でも評価が高く、先輩としても誇らしく思っております。

【証言 6】

前所属) 株式会社損害保険ジャパン

現所属) 大昌産業株式会社

坂口 浩章 (昭和 57 年商学部卒・ユースホステル部 OB)

体育会学生が就職に有利な理由

①就職活動で先輩の情報を活かせる。(昔は携帯やスマホも SNS もない時代)

- ・私もそうでしたが入社きっかけはやはりサークルの先輩の薦めがあったことです。これは間違いなくサークルに所属していたから受ける恩恵であって、所属していない限りこうした「他薦」はあり得ません。
- ・先輩方は我々後輩の人物像は一定把握しており、「その人間がその会社の社風に合うかどうか」みたいなフィーリングを、まったく根拠のないものではありませんが、勝手に判断いただけることです。

②学生時代にスポーツを中心に、個人や団体で一つのことを継続して取り組んだという実績が大きな自信になること。

- ・仲間と一緒にスポーツに取り組んできたプロセスが、実社会に入りいわゆる「世間の厳しさ」と向き合うときでも、前向きに対応することが出来る強みがあります。またサークル活動で培ったコミュニケーション能力を発揮することで、うまく協力者を発掘することが出来る人が多いと感じています。
- ・現実の社会では「人より何か秀でた力を持って成功するような人」は極めて稀であり、やはり困難にぶち当たっても、「本気で、一生懸命、愚直に取り組むことが出来る人」が結果的に周りの人を動かし協力者を増やすことで組織を動かすことの出来るリーダーとして活躍しているケースが多いと感じます。

③最後はメンタル面でのタフさが必要

- ・仕事を進める中で、いくら努力しても解決できない問題や事態に陥ることはよくありますが、大切なのはその後の「立ち直りの早さ」です。いつまでもくよくよしても問題の解

決はないわけで、気持ちをうまく切替えていくことが大切です。私も入社当時「ねあか、のびのび、へこたれず」が大切という社長メッセージをいただいた記憶があります。この点でも体育会の皆さんは、厳しい練習や上下関係にもへこたれず揉まれてきた経験が生きてくることが多いようです。何事も経験（場数を踏むこと）が大切なのです。

④皆さんに送るメッセージ

- ・よく入社するとお前は営業向きだなどと根拠のない理由で言われたりしますが、やはりそれなりのオーラを出しているから、相手がそう感じるのでしょうか。
- ・このオーラってすごく大切に、体育会出身の方々は、つらい練習や試合を通じて、負けたときの悔しさや勝利したときの喜び、サークル活動を通じて先輩・後輩やライバルとの人間関係を磨いてきたからこそ、自然と「人間力」を高めることが出来ているのだと感じています。だからこそ体育会系学生が企業（採用担当者）に好かれる最大の理由なのです。皆さん！自信をもってそれぞれの進むべき道にチャレンジして下さい。私も微力ながら応援させていただきます。

【証言 7】

前所属) 株式会社日立製作所

現所属) 株式会社キムラタン

福原 隆一 (昭和 55 年商学部卒・アメリカンフットボール部 OB)

1. 就職とは

30 年近く採用業務を経験していることから、学生に就職指導を行うことがあります。学生には「就職とは人生を考えること」と最初にお話しています。これは、まず、今まで生きてきて、色々な人から直接・間接的に世話になってきている。例えば、どこへ行くにしても、電車、バス、自動車があり、製品を作る人、運行する人、電力を供給する人等々乗り物一つをとっても色々な人が働いて社会に貢献しており、その恩恵として我々は移動できます。学生までは、その恩恵に預かるだけで良いが、社会人としては、今度はあなた自身が何らかの形で社会に貢献するという事を第一に考えてほしいと思います。

次に、小学校入学・卒業、中学校入学・卒業、高校入学・卒業、大学(院含む) 入学・卒業と人生の節目を経る毎に、人間として成長してきたのではないかと思います。就職とは、まさに人生の大きな節目です。従って、就職活動を通して、大いに成長をしてもらいたいと思います。就職して、社会人として生きていくことになるのですから、どのように生きていきたいか真剣に考えて答えをだしてほしいと思います。

2. 日本企業の採用動向

日本国内での市場が、今後は良くて横這いか縮小すると考えている日本企業、特にメーカーが多いのが実情です。従って、海外で売上を伸ばそうとしています。この結果、日本

企業は外国人を積極的に採用しようとしています。あるメーカーは最低必要限度の日本人学生は採用するが、それ以外は外国人しか採用しないと公言しています。このような状況から、景気が回復したからと言って日本人の採用枠を大幅に拡大することはあまり望めないのではと考えています。グローバル展開を行う企業としては、英語を中心とした語学力が必須となっています。公用語が英語、社内の書類も第一が英語という企業も一部ではありますが増えています。

3. 企業からみた最近の学生とは

現在、企業で最も困っていることの一つは、入社して経験の浅い若手が、所謂、世間で言う「新型うつ」になり戦力外の人財となってしまうことです。「新型うつ」とは、会社に来て仕事だけは出来ないが、仕事以外の、例えば海外・国内旅行、飲み会は OK というメンタルヘルスの一種です。これは、大手の企業ではどこも大なり小なり発生していると思われれます。もう一点は、現在の学生の多くは、核家族化が進んだ状況で育っており、人との繋がりが希薄化していることです。学校生活でも、クラブ活動には参加しない帰宅部生が多い。塾に通って、能力に応じてクラス分けされ、一方通行の授業を受けるだけ。そこには、創意も工夫もない。強いて言えば、アルバイトやボランティア活動が人格形成の場となっているのかもしれませんが、面接でアルバイトの話ばかりを聞かされても、学生の特に、大学で学ぶ意義は何なのかと言いたくなります。

結論から言うと、今の大学生は社会に出る訓練がなされておらず、社会人になって今までの温室から急に外へ放り出されるような状態だと思います。

4. 体育会所属学生を企業が望む理由

「3. 企業からみた最近の学生とは」で述べた通り、最近の学生はあまり企業から評価されていません(少し言いすぎかもしれませんが)。体育会所属の学生が全員有利ということではありませんが、体育会で人格形成され、挨拶もちゃんと出来るということは就職活動では大きな武器になります(但し、武器となるように、相手に理解・納得してもらえらるストーリーが必要です)。但し、それだけでは、就職戦線で戦うには不足することもありますので、希望する企業の状況を出来るだけ調べ、英語(特に TOIEC や留学経験)、資格の取得等をお勧めします。

5. 最後に

現在は、どの大学を出たとかいうのは就職とはあまり関係なく、どんな人生を歩もうとして今まで生きてきたのか、これから生きていくのか、大学では勉強でなくてもいいので何を学んだのか。大学(院)卒の価値は何かということが問われている時代です。大学の銘柄ではなく、個人としての質が問われている時代です。就職も人生の一部です。人生計画が旨くいこともあれば、いかないこともあります。旨くいかなければ、そこで修正すればいいと思います。失敗を恐れるな。失敗すれば反省をして(くよくよしない)、次に進もう。過去は変更できないが、これからは色々と対応できる。学生には未来があります、可能性があります。大きな夢と希望を持って前進して下さい。

【証言 8】

某製薬会社の人事担当

体育会学生が就職に有利な理由

運動部での活動は、運動を通して筋力、敏捷性、柔軟性、調整力、瞬発力、内臓諸器官の機能などの向上、肥満の防止などの身体的効果が期待され、精神的ストレスの解消や人間関係を円滑にするなど、心理的、社会的にも効果が高い。体力や運動能力の向上、個性の伸長を図ると同時に、健康の保持増進、自己の身体や健康に関する安全、衛生、自主管理などの知識・理解を深めることで、その後の生活に役立っている。さらに、学年、男女の枠を越えた協力・共同活動は、集団生活の重要性を学び、他者の理解や自己の存在意義を見つめ直す機会となっている。特に、希薄な人間関係や思いやりの欠如、受験戦争の過熱化、社会の情報化の進行による人間疎外等々、今日の社会状況のなかで、学生にとっては部活動のもつ教育的機能に期待を寄せる声も多い。

運動部に在籍している学生の優れている点としては、

- ① 当たり前のレベルが高い：部活動の中で挨拶や礼儀を学んで来ているほか、指導に関しても素直に受け止める姿勢（基礎を学ぶ）が強く、新社会人の見本となる行動をとり、周囲にいい影響を与える。
- ② 「気力」・「体力」を兼ね備えたタフネス人材：業種や職種、企業規模を問わず、共通して必要である「気力」と「体力」。常にモチベーションを高く維持し、それを継続する体力も兼ね備えている。
- ③ 組織への順応性が高く、帰属意識が強い：体育会学生の多くが幼少期からスポーツを始めており、組織の中での自分の役割というものを自然と身につけ、時には自分を抑えてでも組織のために尽くすという経験をしている。
- ④ 圧倒的な成功体験と挫折から得る失敗から学ぶ力：目標を達成する為に努力をし、結果を残してきた成功体験や部活動の中での挫折の経験から PDCA サイクルを回す習慣を学生時代から身に付けている。

などがあり、スポーツを通じて心身ともに健康であり、社会人基礎力が鍛えられている人材を育成できる運動部は、組織にとって必要である。

（※以上の 8 人の証言は、2014 年 9 月に書かれたものであり、所属・肩書等はその時点のもので。）